



東神吉っ子
・すすんで考える子
・心豊かな子
・強くたくましい子

No.7

令和8年9月25日
加古川市立東神吉小学校



力を合わせて、実りある2学期に



長い夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。暑さ対策としてオンラインで実施した2学期の始業式では、最後まであきらめずに挑戦すること、そして仲間と声を掛け合いながら力を合わせる大切さについて話しました。

9月の朝会では、「あいさつ」「あつまり」「あとかたづけ」「あたたかいことば」「あきらめないところ」の五つの「あ」を紹介し、一人一人の行動で学校をよりよい場所にしてほしいと伝えました。また、学級代表には選任状

を渡しました。クラスのリーダーとして、仲間とともに力を発揮してくれることを期待しています。

2学期は、自然学校や修学旅行、音楽発表会など、たくさんの行事があります。子どもたちが互いに支え合い、力を合わせながら、一つ一つの活動に全力で取り組み、大きく成長していく姿を楽しみにしています。



力を合わせて、実りある2学期に



9月18日(金)、1年生と2年生が合同で姫路市立水族館へ校外学習に出かけました。子どもたちは、1・2年生の混合班で館内を見学し、さまざまな生き物の様子を間近に観察しました。しおりにある「いきものようすをよくかんさつする」「ともだちとなかよくこうどうする」というめあてを意識しながら、班の友

達と声を掛け合い、時計や地図も確認しながら行動しました。水族館では、本館や新館を見学し、ペンギンプールなどにも立ち寄りしました。また、集合時刻を守ることや、周りの人の迷惑にならないよう行動すること、後片付けやごみ拾いをするなど、公共の場で大切にしたいマナーについても実践を通して学びました。今回の校外学習を通して、生き物への興味をさらに深めるとともに、友達と協力して行動することの大切さや、集団行動の基本を学ぶ貴重な機会となりました。



読書が育てる 子どもたちの力



全国学力・学習状況調査の結果が6年生に返却され、国や市においても結果の分析が進められています。子どもたちの生活では、SNSや動画視聴に費やす時間が増える一方、読書の時間は減少傾向にあります。文部科学省の報告書では、「読書が好き」「読書は役に立つ」と考える児童生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向が見られる一方、「読書が好き」と答える割合は減少傾向にあるされています。こうした状況からも、子どもたちが本に触れ、その楽しさを味わ

う機会を大切にしていくことが必要だと考えています。

読書には、言葉の力を豊かにし、自分の思いや考えを伝えたり、文章を深く理解したりする力を育てるよさがあります。また、物語の世界を思い描くことで想像力が広がり、登場人物の気持ちや立場を考えることは、相手を思いやる心にもつながります。さらに、本との出会いは、知らなかった世界への関心を広げ、新たな学びのきっかけにもなります。

学校では、子どもたちがさまざまな本と出会い、読書の楽しさを感じられる環境づくりを大切にしていきます。ご家庭でも、本について話題にしたり、一緒にページをめくったりするなど、読書を身近に感じる時間が生まれれば幸いです。

